

成田支部 二波のストを打ちぬいた自信と確信で 定期大会 80年代を闘う支部体制確立大会



日刊 勤労千葉

80.3.22

No. 383

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二二五八一九(公衆電話三二七二〇七)

第二回成田支部定期大会は、三月十九日成田運転区講習室において、九十七名が結集し開催された。活発な質疑応答をかわす中で本年度の闘う支部の方針と体制を確立した。

日暮支部長の力強いあいさつ

大会は、中島執行委員の司会で始まり、議長団に石井一雄、大野裕両氏を選出して進められた。冒頭、三里塚・ジェット闘争の拠点を担ってきた日暮支部長から次のようなあいさつがなされた。「すぐる一年間は、支部にとって苦難な道であった。しかし、『本部』反動分子の組織破壊攻撃と闘いつつ、十月の小川衆院選の上位当選をかちとり、又、支部結成半年という厳しい状況の中で二波のストを貫徹した。二波のストは、ジェット闘争の勝利の展望を明らかにしたばかりでなく、国鉄35万人体制粉碎の突破口をかちとった。八〇年の闘いは、55・10合理化、来年三月燃料輸送期限切れを前にして、厳しい。しかし、支部は、北総の地、三里塚・ジェット闘争の軸であり位置は大さきい、組合員の最大の協力と団結を要請する。」

多くの来賓から激励のあいさつ

続いて、来賓の小川社会党成田総支部長、伊藤みよ成田市議、反対同盟北原事務局長からそれぞれ心あたたまる激励のことはをいただいた。その中で北原事務局長は、「同盟は現在、政府・公団の二期工事のためのありとあらゆる懐柔策を拒否し、これと闘っている。又、バイプライン建設の破産の中で、ジェット燃料貨車輸送の延長攻撃が策動されている。この攻撃に対しては、同盟あげて闘う決意である。厳しいでしょうががんばってほしい。最後に3・30現地集会には、家族ぐるみで参加してほしい」と訴えられた。

続いて本部から関川委員長、中野書記長、山口交渉部長が参加し、代表して関川委員長から、激動の八〇年を真に闘う路線と決意が明らかにされた。関川委員長は、①勤労中央から分離独立して一年、三里塚・ジェット闘争の第一線で闘った成田支部は、千葉全体を支えた。②55・10合理化、動労中央と当局結託の千葉つぶし、これは八〇年代にむかっの敵側の特徴だ。我々の一切の既得権剥奪を狙っている。③衆院予算委員会に於ける小川衆院議員の質問の中で、地崎運輸大臣の苦しい答弁でも明らかを通り、来年三月のバイプライン



あらゆる反動はねかして打ちぬかれた
10.22 ジェット阻止ストライキ
〈写真は、スト支援にかけた
反対同盟 79.10.21〉

建設は破産であり、貨車輸送延長は不可避。④従って、結成二周年は、千葉にとって正念場。⑤大会の成功をもって、一層の結束を期待する。と提言され、勤労千葉委員長としての力強い決意を表明した。

活発な質疑応答

続いて、支部執行部より、一般経過報告、決算方針案、予算案が提案された。特に主な闘いの経過と総括については、①支部組合員一丸となって、「本部」反動分子との組織攻防戦に勝利し二波のストを貫徹した激闘の八ヶ月間と闘いの成果と意義。②又、この間の闘いに於いて、真に八〇年代に通用する組織的基盤と運動的、路線的前進をつくり出したといえる。以上二点を経過報告の軸として総括した。又、運動方針案は、三里塚・ジェット、反合の闘いを、敵支配階級との真向からの闘いとして位置づけ、当面、55・10合理化、来年三月燃料輸送延長攻撃粉碎を目指した闘う体制の強化と「本部」反動分子などあらゆる反動と対決する組織体制確立に向けた方針と具体策について提案し、ただちに質疑応答に入った。

代議員の主な発言は、①35万人体制について②来年三月燃料輸送期限切れ問題③高齢者対策について④年度末手当⑤3・30三里塚集会のとりにくみについて⑥その他、代議員の活発な質疑が行なわれ、本部、支部の明確な答弁を受けて、本年度の闘う方針を満場一致確認し決定した。最後に3・30三里塚集会への全力決起を訴える内容の大会宣言と日暮支部長の団結ガンパロー三唱をもって、第二回支部定期大会の圧倒的成功をかちとった。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ

3・30三里塚廃港全国総決起集会

10時成田運転区 全支部 全力で結集しよう

労農連帯の力で 反対同盟への組織破壊攻撃を粉碎し、二期工事を阻止しよう